2026年度　お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

人間発達科学　　専攻　・　　教育科学　　コース

一般入試・外国人留学生入試
専　　門　　試　　験

試　験　日　：　2026年 2月 2日(月)

試 験 時 間 ：　9時　30分 ～　12時

【注意事項】

1. 監督者の「はじめ」の合図があるまで問題冊子を開けないこと。

2. 試験中、用のある場合は手を挙げて監督者を呼ぶこと。

3. 各設問に対応する答案用紙に回答すること。

Ⅰ．以下の英文の全文を日本語に訳しなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(出典) Stephen J. Ball and Emiliano Grimaldi (2022) Neoliberal Education and the neoliberal digital classroom, *Learning, Media and Technology*, 47(2), 288-302.(一部改変)

Ⅱ. 以下の設問について、それぞれ400字以内で解答しなさい。なお、必ず3題すべてに解答すること。(解答は、II-1、Ⅱ-2、Ⅱ-3と記載されている答案用紙に、対応する設問の解答をそれぞれ記載すること)

Ⅱ-1. 義務教育において生成AIを用いることの可能性と課題を論じなさい。

Ⅱ-2. 優れた教師の指導法を研究する場合の研究課題を設定し、研究内容を論じなさい。学校段階は問わない。論じる際には①研究課題、②課題設定の意義、③仮説、④研究方法を含めること。

Ⅱ-3. 日本社会における女子大学の存在意義をどのように考えるか、あなたの考えを論じなさい。

2026年度　お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

人間発達科学　　専攻 ・　　心理学　　コース

一般入試・外国人留学生入試
専門試験（外国語を含む）

試　験　日　：　2026年2月2日(月)

試 験 時 間　：　9 時 30 分 ～ 11 時 30 分

【注意事項】

1. 監督者の「始め」の合図があるまで問題冊子を開けないこと。

2. 共通問題である問題1と問題2のいずれにも解答すること。問題3Aから問題3Eは選択問題であり、志望指導教員の専門分野に合致する1つを選んで解答すること。

3. 問題ごとに答案用紙を1枚ずつ用いること。答案用紙3枚が配布される。

4. 答案用紙の左上の問題番号欄に問題番号を明記すること。

5. 問題3に関しては、解答する順序は自由だが、問の番号を答案用紙に明記すること。　例：問1(2)

問題１【共通問題】

以下の英文の全文を日本語に訳しなさい。右肩に数字を付した語句について、本文の後に注があります。（５０点）

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

（出典：van der Linden, S. et al. (2025). Using psychological science to understand and fight health misinformation: An APA consensus statement. *American Psychologist*. Advance online publication. より一部改変）

問題２【共通問題】

以下の英文の全文を日本語に訳しなさい。右肩に数字を付した語句について、本文の後に注があります。（５０点）

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

（出典：Kanai, R. et al. (2011). Political orientations are correlated with brain structure in young adults. *Current Biology, 21*(8), 677–680. より一部改変）

問題３Ａ【選択問題：発達心理学】

問１
以下の（１）から（５）のうち３つを選び、それぞれについて、具体的にわかりやすく説明しなさい。（２０点×３）

（１）自閉スペクトラム症（ASD）

（２）一次的ことばと二次的ことば

（３）子どもの実行機能を調べる課題

（４）二項ロジスティック回帰分析

（５）回想法

問２
時間の認識の仕方に年齢による違いがあるかを調べるための研究案を述べなさい。検討する内容、仮説、方法、分析方法を含め、具体的に書きなさい。適宜、図を使用してもかまいません。（４０点）

問題３Ｂ【選択問題：認知心理学】

問１
以下の（１）と（２）のそれぞれについて、できる限り詳しく説明しなさい。（１５点×２）

（１）マガーク効果

（２）内受容感覚（interoception）

問２
検定力（または検出力）の定義と、それを規定する要因、さらに研究において検定力を考慮することの意義について、できる限り詳しく説明しなさい。（２０点）

問３
他者と共同で課題に取り組むことが注意機能に及ぼす影響を調べる実験研究を計画しなさい。なおストループ効果を測定する課題を実験に用いること。実験方法、分析方法、予想される分析結果について、できる限り詳しく述べなさい。研究目的の達成に必要であれば、計画に複数の実験を含めてもかまいません。また、適宜、図を用いてもかまいません。（５０点）

問題３Ｃ【選択問題：社会心理学】

問１
社会心理学における以下の４つの理論の中から２つを取り上げ、それらについて具体例を挙げながら知るところや見解を述べなさい。（２０点×２）

（１）情動二要因理論

（２）客体的自覚理論

（３）社会的アイデンティティ理論

（４）社会的交換理論

問２
ネットにおける誹謗中傷などの攻撃行動を促す心理社会的要因を明らかにするための研究計画を一つ考案しなさい。問題の背景、仮説、方法、分析計画（独立変数、従属変数、解析方法など）、想定される限界などについて、できるだけ具体的に、日本語で記述すること。適宜、図を使用してもかまいません。（６０点）

問題３Ｄ【選択問題：臨床心理学】

問１
以下の（１）と（２）のそれぞれについて、３つの用語を組み合わせ、日本語で統合的な説明を書きなさい。（２０点×２）

（１）行動変容、社会的認知理論、自己効力感

（２）ランダム化比較試験（RCT)、内的妥当性、因果推論

問２
以下の３つの用語を組み合わせ、英語で統合的な説明を書きなさい。
（２０点）

moderation, mediation, dependent variable

問３
社会文化的背景とメンタルヘルスの関連について、実証的に明らかにするための研究計画を、１つ考案しなさい。問題の背景、仮説、方法、分析計画（独立変数、従属変数、解析方法など)、想定される限界について、できるだけ具体的に日本語で記述すること。適宜、図を使用してもかまいません。（４０点）

問題３Ｅ【選択問題：教育心理学】

問１
以下の（１）から（４）のうち２つを選び、それぞれについて解説せよ。専門知識がない者にも理解できるよう、詳細に、かつ、わかりやすく記述すること。（２０点×２）

（１）発達の最近接領域

（２）期待・価値理論

（３）誤信念課題

（４）感情制御

問２
以下の２つの問いに解答せよ。可能な限り、詳細に記述すること。（３０点×２）

（１）統計的仮説検定における検定力（検出力）とは何か、また、それはどのような要因によって規定されるか説明せよ。

（２）調査研究の内的妥当性および外的妥当性を高めるための方法について論ぜよ。

2026年度　お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

人間発達科学専攻 ・ 発達臨床心理学コース

一般入試・外国人留学生入試
専　　門　　試　　験

試　験　日　：　2026年 2月 2日（月）

試 験 時 間　：　9時 30分 ～ 11時 30分

【注意事項】

1. すべての問題に答えること.

2. 問題ごとに指定の答案用紙を使用すること.

2026年度大学院人間文化創成科学研究科（博士前期課程）人間発達科学専攻
発達臨床心理学コース　2月入試
【専門試験】

問題1

発達の気になる子どもの特徴を捉えるうえで，発達検査や知能検査を実施する意義および限界について論じてください.

2026年度大学院人間文化創成科学研究科（博士前期課程）人間発達科学専攻
発達臨床心理学コース　2月入試
【専門試験】

問題2

A市の教育相談室では，適応の問題を抱える小学生約40名とその保護者が年間を通して支援を受けている．ここで実践されているプレイセラピーの効果を検証するための研究計画案を具体的に考え，(1)～(4)について述べてください．

(1) 研究デザインと手続き

(2) 対象や実施環境に伴う手続き上の制約

(3) 必要な倫理的配慮

(4) データの分析方法

2026年度大学院人間文化創成科学研究科（博士前期課程）人間発達科学専攻
発達臨床心理学コース　2月入試
【専門試験】

問題3

次の事柄を説明してください.

問1　因子分析

問2　認知療法と行動療法

問3　双極症

問4　多重関係

問5　心神耗弱と心神喪失

2026年度　お茶の水女子大学大学院

人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

人間発達科学専攻 ・ 応用社会学コース

（ 一般入試および外国人留学生入試）

専 門 試 験 （ 外 国 語 を 含 む ）

試 験 日 :2026年2月2日(月)

試験時間:　9:30 ～ 12:00

【注意事項】

解答は，問1，問2，問3それぞれ別々の答案用紙に日本語で記入すること。

2026 年度 大学院 人間文化創成科学研究科(博士前期課程) 人間発達科学専攻
応用社会学コース 2 月入試 専門試験(外国語を含む) 一般および外国人留学生入試

問1. 次の英文を読んで, (1)～(3)の問いに答えなさい。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

(出典: Hochschild, Arlie Russell, 2012, *The Outsourced Self: What Happens When We Pay Others to Live Our Lives for Us*, Picador, pp. 12-13, 179 より, 一部改変.)

(1) 下線部①と②を日本語に訳しなさい。(20 点)
(2) 下線部(a)中の clear-cut はどのようなことを指しているか説明しなさい。(20 点)
(3) 現代社会における人間関係の特質について, 社会関係資本(social capital)と市場化のそれぞれの正負両面を考慮に入れつつ, 社会学的に論じなさい。(50 点)

問2. 次の A, B の 2 問のうち, いずれか 1 問を選択して解答しなさい。(最初に A, B のいずれを選択したかを明記しなさい。) (50 点)

A. 人間の死の変遷について, 次の概念の一部, またはすべてを用いながら, 社会学的な観点から論じなさい。

地域共同体, 疾病構造の変化, 医療化, 格差

B. 家庭内で生じる「見えない」ケア負担の不平等について, 社会学的に論じなさい。

問3. 次の①～⑥の概念のうち 4 つを選んで, それぞれ項目の番号を明記してから説明しなさい。(15 点×4 項目)

① 標準誤差(Standard Error)
② ホモナショナリズム(Homonationalism)
③ 必要と欲望(Needs and Wants)
④ 創られた伝統(The Invention of Tradition, 伝統の創造)
⑤ アンダークラス(Underclass)
⑥ 関係人口

2026年度　お茶の水女子大学大学院
人間文化創成科学研究科（博士前期課程）

人間発達科学　　専攻　・　　保育・児童学　　コース

（一般・社会人特別・外国人留学生 入試）

専門試験（外国語を含む）

試　験　日　：　2026 年 2月 2日（月）

試 験 時 間 ：　9時 30分 ～ 12時 00分

【注意事項】

1. 監督者の「始め」の合図があるまで問題冊子を開けないこと。

2. 試験中、用のある場合は手を挙げて監督者を呼ぶこと。

3. 問題ごとに答案用紙一枚を使用し、答案用紙の左上の問題番号欄に
   問題番号を明記すること。
4. 複数の問が含まれる問題については、問の番号・記号を明記してから回答を記載すること。

5. 答案用紙の表面に書ききれない場合、裏面も解答欄として用いてよい。

問題 1　次の英文を日本語に訳しなさい。ただし、人名は原語のままでかまわない。

この部分に記載されている文章については、
著作権法上の問題から掲載することが
できませんので、ご了承願います。

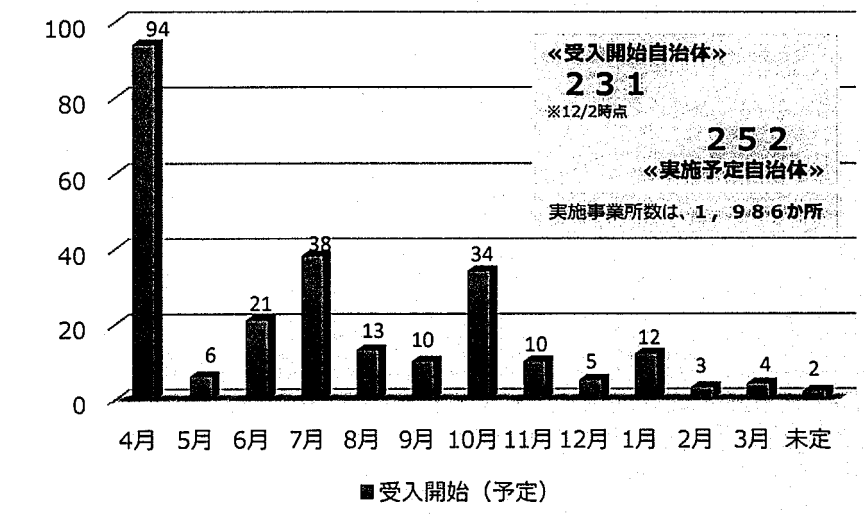
出典）Elfer, P. (2024). Let's get serious about feelings in early years practice. In P. Elfer (Ed.) *Talking with Feeling in the Early Years: 'Work Discussion' as a Model of Supporting Professional Reflection and Wellbeing.* Routledge, pp. 3-9.（うち引用箇所は pp. 3-4.）より一部改変。

問題２　日本の「こども未来戦略」(2023 年 12 月 22 日閣議決定) に基づく施策に関して、次の各問に答えなさい。

(1)「こども誰でも通園制度」は、「全てのこどもの育ちを応援し、こどもの良質な成育環境を整備するとともに、全ての子育て家庭に対して、多様な働き方やライフスタイルにかかわらない形での支援を強化する」ためのしくみとして、2026 年度から全国で実施される。2026 年２月時点までに、どのような制度として検討されているか、概要を説明しなさい。(300 字程度)

(2)「こども誰でも通園制度」が「こどもの良質な成育環境を整備する」ことを実現するうえで、制度上どのような課題を内包していると考えられるか。(1) で解答した制度の概要に照らして、課題として考えられることを論じなさい。(500 字程度)
その際、以下の資料から読み取れることを参考にしてもよい。

☆令和７年度は、地域子ども・子育て支援事業として自治体の判断で実施。
☆今年度は、２５２自治体で実施予定。１２月２日時点で２３１自治体で事業が開始されている。



※２５２自治体のうち、１７５自治体が令和７年度中に総合支援システムを活用予定。

事業所類型の実施自治体数 ※予定数含む ※複数回答含む	認可保育所……１７２自治体 認定こども園（幼保連携型）……１５７自治体 小規模保育事業所（A型）……６１自治体 認定こども園（幼稚園型）……６１自治体 認定こども園（保育所型）……６０自治体 幼稚園（施設型給付を受ける）……４２自治体 地域子育て支援拠点……３１自治体 幼稚園（施設型給付を受けない）…２８自治体 認可外保育施設……１７自治体 事業所内保育事業所……１７自治体 企業主導型保育施設……１０自治体 小規模保育事業所（B型）……８自治体 一時預かり事業所……７自治体 家庭的保育事業所……６自治体 認定こども園（地方裁量型）……５自治体 自治体独自事業（未定含む）……４自治体 単独（専用）施設……４自治体 小規模保育事業所（C型）……３自治体 児童発達支援センター……２自治体 放課後デイサービス……１自治体
運営主体ごとの実施自治体数 ※予定数含む ※複数回答含む	社会福祉法人……１５６自治体 公立……１５６自治体 学校法人……１２９自治体 株式会社……５０自治体 特定非営利活動法人……２７自治体 個人立……１７自治体 一般社団法人……１５自治体 医療法人……８自治体 宗教法人……６自治体 合同会社……４自治体 有限会社……４自治体 公益財団法人……１自治体

出典：こども家庭庁「令和７年度 こども誰でも通園制度 実施状況速報」(2025 年 12 月２日現在) (https://www.cfa.go.jp/policies/hoiku/daredemo-tsuen 2026 年 1 月 8 日取得) より、一部改変。

問題３　次の文章を読んで答えなさい。

(1) 著者は、アニミズムについて、発達心理学と人類学でそれぞれどのように扱われてきたのかを論じている。それぞれの学問における考え方について述べなさい。
（300 字程度）

(2) 著者は、倉橋惣三による幼児の動物への親しみについて、どのようなことを述べているのか、論じなさい。（400 字程度）

出典：山本一成（2025）『生きているものどうしの想像力―アニミズムがひらく生命の保育・教育』世織書房.（一部改変。問題資料は pp. 81-85 より出題。）

問題3　資料　1ページ目

文章内にある（ ）内の小さな数字（例えば、資料冒頭から2行目の「知られている（8）」の（8））は無視してください。

発達心理学の領域では、子どもは太陽や石といった無生物に対し「生きている」とラベルづけし、動物や人間の特徴を無生物に付与して理解するアニミズムをもつことが知られている(8)。近年の研究では、アニミズムは幼児だけの特徴ではなく、大人もさまざまな場面でアニミズム的な認知を行っていることが明らかになっているが(9)、これまでの心理学のなかで、アニミズムは発達的に未熟な生命認識を示すものとして扱われてきた。

一方、人類学では、人間以外の存在に魂や霊の存在を認める考え方をアニミズムと呼んできた。一九世紀の人類学者エドワード・タイラーは、人間以外のものに魂や霊を与える信念をアニミズムと名付け、アニミズムが多神教へ、さらには一神教へと進化したという説を唱えた(10)。その後アニミズムは理性的な人々にとっては単なる自然物にすぎない対象に、誤った仕方で生命性を付与する未開人の迷信として長く扱われてきたことが指摘されている(11)。

なぜこのようにアニミズムは未熟で未開な思考としてとらえられてきたのだろうか。

私たちは一般的に、生きているかどうか、ということをその対象が生命を保有しているかどうか、という基準から判断する。しかし、インゴルドは、このような物の見方が西洋的な思考様式、つまり、世界がさまざまな属性をもつ対象と、その対象を意味づける主体からなるという二元論的思考様式に基づく一面的な見方でしかないと主張する。たとえば、第3章で挙げたような、コユコン族やオジブワ族の世界観は、西洋的な二元論の図式とは別の、しかし真剣に向き合うべき生命観を示している。

コユコン族やオジブワ族の生命観は、「動き」に生命を見出す動詞的世界観である。このような世界観においては、私たちが通常行っているように、生命性animacyは物に付与される属性であるとは考えられない。

私は、animacyという概念を、あるものはそれをもっており（生きている）、あるものはそれをもっていない（生きていない）といったように、孤立した対象に付与される属性としてみなすことはできないと考えている。なぜなら生命とは、個々の有機体の内側に個別にインストールされ、非生命の舞台に息吹を与えるような原理ではないからである。反対に、これまで述べてきたように、生命とは、「有機的な形態が位置し保たれていく生成的な場で、進行しつつあることの名」である。…この生成的な場は、有機体－環境の関係の全体性によって構成されており、有機体の活動とは、その開かれの瞬間である(12)。

この観点からすれば、幼児がさまざまなものを「生きている」とするアニミズム的な知覚は、対象を「生きている」と見立て、あるいは「生きている」イメージを対象に付与している知覚ではない。

アニミズム的な世界観は、これまで擬人化という思考様式の観点から語られてきた。たとえば、一般的な大人は、動物が人の言葉を話せないと知っているにもかかわらず、自分が飼っているペットに対しては言葉でやりとりすることが可能であると信じていたり、自分たちと同じように服を着せたりすることがある。また、絵本に出てくる動物は同様に、服を着、人の言葉を語ることで擬人化されている。インゴルドによれば、このような擬人的表現は、人間と動物の距離を縮め境界を曖昧にしているようでありながら、実は人間と動物の差異を強調している。なぜなら、思考や意図や行為といった「人格（person）」は人間（human）の観点からのみ語られており、動物は「人間性（humanity）」が乗り移る（付与される）ことによってのみ、「人格」をえることができるからである(13)。このような認識は、対象（物質）に属性（精神）が付与されるという二元論的な世界観に基づいている。

対照的に、オジブワの世界観において、「人格」は多様なかたちをとるものであり、人間はその一つにすぎない。「人格」は、雷や風といったものから、石に至るまで、さまざまに姿を変えながら現れる。動物はある特定の状況において「人格」として現れるが、それは完全に人間と同じものとしてみなされているのではない。たとえば、ハンターは、熊と鉢合わせたとき、熊が人間の言葉を理解し、自らの意志で応じてくるものとして語り掛ける。そのときハンターは、熊に人間性を付与しているのではなく、「熊が熊であること（bearness）」は保たれている。このとき熊は完全に人間ではないが、しかし、人間とコミュニケーション可能な「人格」として世界に存在している(14)。熊は人間と同じように意志や記憶や言語をもつことがあるが、その「人格」のリアリティは、その状況においてその都度生成するのである。

問題3　資料　2ページ目

雷や風や熊と応答するという状況は、生きて動いている世界との出会いのなかで、各々の存在の生命力が「人格」としてあふれ出してくることを示している。つまり、アニミズムの世界において、「生活世界のアニマシーは、魂をサブスタンスに注入した結果でも、エージェンシーを物質性（materiality）に注入した結果でもなく、むしろ存在論的にそれらの差異化に先立つ」のである(15)。対象を生きているとみなすのではなく、生きている世界が先にあり、その世界のうちに参与することで、「人格」をもった存在に出会い、各々の生き方の差異が知覚されてくる。それは「物のなかに生命があるのではなく、物の方が生命のなかにある」(16)という立場として位置づけられる。

このような世界との出会いについて、インゴルドは私たちにとって身近な「風」を例にして説明する。私たちは物質としての風を「生きている」とはみなさないが、風が風に乗り、その力強い抵抗を感じるとき、私たちは風に「生きている」かのような活力を感じることになる。インゴルドによれば、このとき感じられる活き活きとした感覚は、私たちが風という対象に生命性を付与したために生じるのではない。このとき風の揚げ手は、風を通して、それを浮上させる空気と応答することで、活き活きとした世界にふれている。インゴルドが「生のダンス（dance of animacy）」(17)と呼ぶこのような応答において、私たちは「生命のリアリティ」を体験している。私たち大人も、固定した世界を流動する世界に引き戻すことによって、「生きていること（going about）」にふれられるのである。

コユコン族が、キツネを「火花のようにやぶを疾走する」という動詞で呼び、フクロウを「トウヒの樹の低い枝に止まる」と呼んだように、アニミズムを生きることは、生命の線が走り絡み合う動詞的な世界を生きることである。幼児はこのような生きて動いている世界を直接に知覚しているように思われる。

倉橋惣三は、幼児が生きる動きゆく世界に沿って考えることを徹底した人物であった。倉橋は「幼児と動物」という論考のなかで、幼児が出会う動物について以下のように論じている。

> 動物ほど子どもの興味をひきつけるものはない。しかもそれは、美しいからとか、形が珍しいからということが主ではない。いうまでもなく生きているからである。自分で歩き走り飛び、自分でものを飲み食いし、自分で声を出すからである。殊に、その表情は不充分ながら、喜んだり、怒ったり、親しんだり、恐れたり、自分の感情をもっているからである。これは何でもないことのようであるが、子どもが花にも玩具にも求められない満足である。だから、興味をひくといっても、ただ面白いだけでなくて、友達らしい気分を以て結びつけられてくる(18)。

幼児の動物への親しみについて述べた文章であるが、その理由として倉橋は「生きている」ことを挙げている。子どもたちは、動物が「人間」ではないことは知っているが、動物に「人格」をもったものとして出会い、友達になることができる。動物は、自分たちと同じく「生きている」存在である。この「生きていること」の共有が、動物の世界を子どもにとって身近なものにしている。そして、さらに注目すべきは、この「生きていること」を感じる幼児の観察について倉橋が言及した以下の部分である。

> （子どもの）動物に対する観察は、植物の観察や器具の観察と違って、どこまでも生きた観察がされるのである。象の鼻の長さも、ただ寸法の長さではなくて、振り方に於いて観られる長さである。鹿の脚が細いのも、ただ、細さだけでなくて、あの軽快な跳走に於いて観られる細やかさである(19)。

倉橋が述べる「振り方に於いて観られる長さ」、「軽快な跳走に於いて観られる細やかさ」は、コユコン語がとらえる動詞的な世界と共鳴している。幼児にとって象は、「象」でなく「大きくて長い鼻をぶおーんと振る」として、鹿は「鹿」でなく「しなやかに跳ねる細長い足が籔を跳ぶ」として出会われている。このような幼児と動物の出会いについて、倉橋は「動物の種類を知識として知ることではなくして、生きているものとして知ること」(20)であると述べている。倉橋は、幼児が「生きて動いていること」を感覚し、その動きに呼応して生きていることに気づいていた。それはまさにインゴルドのいう生命の線のメッシュワークの世界である。倉橋のいう「生きて動いているところの生活」とは、このような生命との応答の過程にある幼児の生活なのである。